# 甲南大学法科大学院入学試験問題について

2019年度春入学
社会人特別選抜入学試験（12月選抜・12月2日分）

## 試験科目：憲法

1．出題趣旨
≪第１問≫
　憲法の重要判例の正確な理解を基にして、類似事例について、共通点と相違点に留意しつつ、考察できるかどうかを問う問題である。
本問では、政教分離原則違反が問題となった諸判例、特に津地鎮祭事件（最大判昭和５２年７月１３日）の理解を基に、検討し、違憲主張とそれに対する反論を組み立てることを求めている。
　本問では、津地鎮祭事件最高裁判決が示した基準を用いて、立場によって事実の評価を変えることで、２つの立場を組み立てることになる。ポイントは、観音像のもつ宗教的色彩や設置目的など、本問固有の事実をどう評価するかである。観音像設置者の目的と、観音像を見た人など設置者以外の人の受け止め方をどう評価し重みづけるかが問われている。

≪第２問≫
　統治分野の基礎知識を問う問題である。

2．採点実感
　すべての答案で、政教分離原則違反の問題であることは指摘されていたが、目的効果基準が不完全な形でしか示されていなかった。当該行為の行われる場所、当該行為に対する一般人の宗教的評価などの考慮要素まで含めての基準であることが理解できていないのだと思われる。考慮要素が示されていないので、当てはめの記述も分析の浅いものばかりであった。

3．学習方法
　当然のことだが、基礎知識を身につけるための作業は必須である。特に、法曹を目指す人は判例学習をおろそかにすべきではない。判例は、判決等の論理だけでなく、事実の概要を踏まえて分析、理解、暗記する必要がある。